

広報まちづくりかなうら

第 15 号
令和 4年 1月1日
金浦地区まちづくり
自治協議会広報部会

コロナ禍の金浦まち協の活動報告について!

コロナウィルスが蔓延し、岡山県下でも5月から6月及び8月下旬から9月末にかけて緊急事態宣言等が発令され、活動が大幅に制限されることになりましたが、コロナ感染防止に十分注意を払ったうえで継続可能な活動については実施してきましたので、部会毎にその概要を紹介します。



1 企画部会

まち協活動の軌跡を紹介

金浦中学校SDGs教育導入に賛同して

コロナウィルス感染防止の観点から、公民館主要3行事や社会福祉協議会の行事が中止または縮小されるなかで活動も大幅に

減少しましたが、買い物支援及びワイヤレスコール機器貸出事業については、感染防止に注意を払って継続して実施しました。

また、金浦中学校で教育に『SDGs・(継続可能な開発計画)』が導入され、これに賛同する形で、金浦・城見・陶山地区の各まちづくり協議会も関わっていくことになりました。

各地区の将来を担う地元中学生達がまちづくり活動に意識を向けてもらったことが、力強い味方が加わった様で今後の活動の励みになっています。

金浦まち協では金浦中学校美術部の生徒さんに環境改善に係る手作りポスターの作成をお願いしています。これにより地域の環境改善に寄与できるものが、近いうちに皆様の地域で披露できると思います。また、今後はジュニア代議員(仮称)としてまちづくり活動に加わって戴くことも視野に入れて検討しています。



【筒井会長によるまち協活動紹介 於:金中体育館】

今回、金中生徒のSDGs教育に少しでも役立てばと考えて、部会別に「まち協活動の軌跡」としてまとめてみました。4ページ以降に掲載していますので是非お目通しいただきまして、ご意見等を頂戴できれば幸いです。

2 防災部会

「地区防災計画」を
策定中

防災部会もコロナの影響により、当初予定していた吉浜北地区他3箇所の「防災研修会」の延期が余儀なくされましたが、広報誌14号で紹介しました『地区防災計画』を鋭意策定中です。

これは、平成30年7月豪雨災害の教訓を踏まえて河川氾濫や津波等で浸水が想定される区域

や、土砂災害警戒区域がある地区の「災害時における避難行動要支援者の個別避難計画」を踏まえた策定としており、この金浦地区防災計画は岡山県が支援するモデル事業となっています。

具体的には、災害発生時に“住民の逃げ遅れゼロ”を目指すために、地区毎の特性を把握したうえで可能な限りリスクの低減が図れる計画となるように、平成28年度に作成した地区毎の「防災マップ」を見直すと共に地区対策本部の設置等の検討を行っています。

これら「計画書」は、令和3年度中に完成させるように部会員が団結して奮闘しています。



【香川大学磯打特命准教授をお招きし、打合せ中】

3 交通・防犯 部会

コロナ禍でも“登下校時等の見守り”と“青パト防犯活動”を継続中！

金浦小学校児童の登下校時の見守り活動については、PTA並びに地区老人会等のボランティアにご協力をいただきながら、コロナ禍でも行っています。

また、青パトによる防犯活動についても金浦小学校の始終業時における一斉下校時に合わせて継続実施していますが、「通学路を中心とした安全の確保」を目的とした諸設備の改善については、ある程度進捗していることに加えてコロナの影響もあり、滞っているのが現状です。



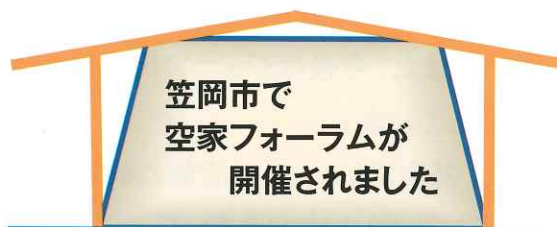
【金小児童の下校時見守り活動中】

今回の改善提言は、金浦鉄北及び生江浜地区から通学路のカーブミラー改善と通路舗装及び防犯灯の設置の3件で、カーブミラー等については、笠岡市へ申請中です。また防犯灯の設置については、既に笠岡ダイハツ販売(株)さんのご厚意により設置済となりました。(関連記事12ページ)



4 環境 部会

(1) 空家対策について



令和3年11月15日笠岡市保健センター「ギャラクシーホール」で岡山県住宅課が主催する井笠圏域の“空家フォーラム”が開催されました。

これは地域と行政、民間団体が連携して空家の

活用に取り組むための事例報告会で、笠岡市の他に井原市、浅口市、津山市から代表者が自箇所の取組状況を発表しました。笠岡市では、金浦地区から平井副会長及び定住促進センター並びに都市計画課から担当職員が、当地区の空家調査とその利用状況と危険家屋の措置状況等について説明を行いました。



【平井副会長による地区の空家対策説明】

(2) 空家対策以外の環境改善活動について

その他の環境改善活動については、地区毎に定期清掃を実施する他、有害鳥獣駆除のための勉強会や「ゴミポイ捨て防止啓蒙看板」を増設するなどの取組を進めてきました。

コロナ禍の中で活動が大幅に制限される状況が続いていますが、部会員一同、金浦地区の居住環境が少しでも良くなったと感じ

て戴けるように活動を続けていきます。



【金浦鉄南地区 清掃作業】



金浦地区まちづくり協議会活動に 参画して感じたこと・実践したこと！

笠岡市地域福祉課長
三島 哲利



私は、金浦地区まちづくり自治協議会(以下「まち協」と云います)の笠岡市の地域担当職員の三島です。生まれも育ちも金浦鉄南です。地域担当職員の本来的な役割は、まち協の会議に参加し、まち協の活動に対して有益な情報の提供をしたり、市の担当課と連絡調整を図りながら住民皆さんが理想とする金浦のまちづくりに貢献することであると思っています。

金浦まち協には、私のほかに都市計画課の土井さん、健康福祉課の松浦さんの3人が配置されています。…… 私の出身地から若干手前味噌となることをお許し願って

平成23年9月に金浦まち協が誕生して以来、役員や代議員の皆さんは、非常に活動的で、しかもまとまりがあり、笠岡市内24地区まちづくり協議会の先頭を走っていると思います。

平成30年7月豪雨では、吉浜地区や生江浜地区で床上浸水などの甚大な被害が発生しましたが、その教訓から防災部会の協力により金浦地区に「個別避難計画」を作成しました。「個別避難計画」とは、災害が起こった時に一人では避難が出来ない高齢者などをどこの避難所に誰と一緒に避難するかと云うことを予め定めて置くことです。

この「個別避難計画」は笠岡市で初めて作成されたもので、今年度まち協防災部会はこれをベースにして「金浦地区防災計画」の策定に取り組んでいます。

元号が令和に変わり、コロナ禍で生活様式が激変していますが、人と人との繋がりを大切に、「誰一人として取り残さないまち金浦」であり続けられるように、微力ながら頑張っていきたいと思っておりますので、宜しくお願い致します。

【写真は、左から三島哲利さん、土井一喜さん、松浦奈保美さんです。三島さんは、防災部会 土井さんは広報及び交通防犯部会 松浦さんは企画及び環境部会にて大所高所からご指導やご協力をいただいております】



◆だれがどのように…？

当地区では、既に行政協力委員会、社会福祉協議会を始め公民館等の団体が活動しており、新しく参入した「まち協」がなすべき活動が明白でなかったそこで「行政協力委員」を母体に地域の方々の意見を伺いながら方向性を探ることとし、同時に既団体との調整を図っていくこととした

活動を充実化させるためには、地域の将来を担う若い人の意見も取り入れることが必要と考え金浦中学校生徒192名のアンケートを実施し、これをベースに代議員全員によるワークショップを開催し、今後の活動指針と目標を定めた

きっかけ

平成23年にまち協を発足させたが活動内容等で既存団体との競合部分に調整の必要があった

東北地方大震災発生により緊急に防災対策の必要があった

(H25住民アンケート調査)
全世帯1,723戸配布
回収1,485世帯(86%)

STEP1

- ①活動の方向性を決定するために地区住民のアンケートを実施
- ②アンケートを集約し、活動の方向性を定め、広報誌で紹介
- ③関係団体との調整を始めると共に防災対策を中心にして活動に着手

※既に活動が活性化していた地区
島根県雲南市を視察

STEP2

- ①公民館との協議後、主要3事業について協働を開始
- ②社会福祉協議会とも同様に協議し協働を開始
- ③地区住民のアンケートの要望事項のうち実施可能な件名から着手
- ④金浦中学校生徒のアンケート実施
- ⑤代議員ワークショップ(未来計画)
- ⑥まち協独自の活動を追加

STEP3

※活動指針

- ①豊かな『自然と環境』の維持改善
- ②『文化や伝統が守られ、住民の絆がさらに強まる』地域づくり
- ③『従来にも増して安心・安全なまちづくり』活動
以上の3点の活動を推進すること

※活動目標

みんなが”住み続けたい”と思う
まちづくり、地域づくりを目指します

今後の展望

将来に向けて

この活動をSDGs(継続可能な開発計画)としていくために
※地域の若い人(金中生徒の意見を求めることを前提として)

- ① 豊かな「自然と環境」の維持改善活動
ゴミ減量化等の環境問題に関する地域の方々の意識の高揚を図るために、手作り「ゴミポイ捨て防止啓蒙看板」等を活用
- ② 「文化や伝統を守り、住民の絆を強める」活動
ひったか・おしぐらんごや各地区の神社仏閣のお祭り行事を通じて住民の絆を強めていくために保存会や神社総代等の組織とまち協がさらに連携を強化して活性化を図る
- ③ 地域の「安全・安心」の確保
”地区防災計画”により、まち協の防災部会活動を充実させると共に、登下校の見守り活動や通学路整備の充実化を加速
- ④ みんなが”住み続けたい”と思うまちづくり
現在行っている事業を含め高齢者福祉事業等の深度化を模索する

☆課題をどのように解決…？

地区の行政協力委員、社会福祉協議会委員、民生児童委員、愛育委員、公民館運営委員等関連する団体の協力を得ること(関連する団体役員等の代表者がまち協の代議員としても活動をお願いしています)

各種地域活動の活性化・高齢化対策等の推進 (企画部会)



【公民館主要事業 敬老会・地区民体育祭・芸能文化祭】



【買物支援事業 袖解さくら会メンバー】



【ワイヤレスコール機器 貸出事業】



田植え



稲刈り



餅つき

【社会福祉協議会 世代間交流事業】

地域の防災・減災活動の推進(防災部会)



◆だれがどのように…？

平成23年度の東北地方大震災を契機に「金浦まち協」は防災・減災活動を中心にスタートさせた。従来から所在していた「自主防災組織活動」が低調であったため、自主防組織の意向を踏まえたうえで、まち協と協働での活動に切り替えた。

活動を充実化させるためには、関連する諸団体の協力が必要となる。特に防災部会では、非常食準備等の対応もあり、地区の栄養委員に加わっていただいている。

きっかけ

平成23年3月11日東北地方大震災発生による
防災・減災活動必要性を認識
自主防災組織の活動が低調
(H25住民アンケート調査)

STEP1

- ①活動に必要な防災資機材の調達から開始した
- ②災害発生時の避難場所を選定すると共に避難訓練等を開始した
- ③津波災害に備えた海拔表示盤を設置すると共に地区毎に防災マップを作成し各戸に配布した
併せて、防災訓練や研修を計画を策定

STEP2

- ①笠岡市危機管理課と調整を図りながら、保管庫を含め防災資機材を順次取り揃える
- ②避難場所一覧表を作成配布
- ③地区毎に2年に1回の防災訓練や避難訓練を実施
- ④笠岡市主催防災訓練に積極参加
- ⑤HUG等の研修会実施

STEP3

- ※災害は忘れたころに！
- ①地区毎に実施している防災訓練・研修及び避難訓練等は住民の意識を維持させるため継続実施
 - ②調達している防災資機材を必要な時に活用できるようにするため、日頃からの点検整備を怠りなく
 - ③自主防災会とまち協防災部会の活動一元化を目指して、自主防災会長と防災士がまち協代議員に
 - ④災害時要支援者に対する対応の検討開始

今後の展望

将来に向けて

この活動をSDGs(継続可能な開発計画)としていくために

- ① 災害対策基本法第42条の規定に基づいて、住民の生命と財産を災害から守るための対策を実施するために、「地区防災計画」の作成に取り組んでいます
- ② 平成25年に地区毎の「防災マップ」を作成し、関係各戸に配付していますが、これを見直して地区防災計画に加えます
- ③ いずれも活動を継続発展させるために、「災害時要支援者」に対する取組を含めて地域住民に対する周知と理解を求めていく努力が肝要になると思っています

☆課題をどのように解決…？

地区民生委員・行政協力委員の協力を得て「災害時要支援者」や支援する立場の人及び具体的な支援方法を定めた。これを十分活用できるようメンテと関係者への啓蒙が必要

地域の防災・減災活動の推進 (防災部会)



【防災研修及び訓練 生江浜地区】



【初期消火訓練 生江浜・金浦鉄南地区】

【初期消火訓練 吉浜・大河地区】



【避難訓練(金浦小学校・幼稚園及び新川保育園)】

【笠岡市防災訓練、研修に参加 於金浦中学校体育館】

地域の児童・生徒等の見守り、交通・防犯活動の推進(交通・防犯部会)



◆だれがどのように…？

平成23年度、防災・減災活動を中心にスタートさせた「金浦まち協活動」に地区住民のアンケート調査に基づいて、27年度から新たに「交通・防犯部会」と「環境部会」を加えて活動の充実化を図った

活動を充実化させるためには、関連する諸団体の協力が必要となるため、PTA役員、更生保護女性会員代表者にまち協の代議員に加わっていただいたほか行政協力委員、地域安全推進委員、老人会からの有志にも参加していただき活動を推進している

きっかけ

地域の子供達の登下校時における見守り活動はPTAが主体

平成26年7月倉敷市で児童誘拐事件が発生

地域の交通安全設備の不備が散見されたこと
(H25住民アンケート調査)

STEP1

- ①今まで各地区毎で行われていた金浦小学校の登下校時の見守り活動を全地区で一斉実施に拡大する
- ②交通安全に係る設備改良を実施
- ③活動の実効をあげるため、関連する団体の協力を求めた打合せ会議を開催し、今後の活動指針を決定「青パト運行」による防犯活動強化を含む

※児童の下校予定時刻を毎月まとめて学校から提示して戴き、関係者に通知している

STEP2

見守り活動の中で気付いた設備等の改善意見を併せて集約し、改善を実施

- ①子供110番看板の再設置
地区内80世帯(従来の約2倍)
- ②カーブミラーの増設
- ③危険な側溝に転落防止柵設置
- ④通学路の舗装修繕
- ⑤交通量の多い箇所に減速表示他

STEP3

- ①平成28年8月に金浦中学校生徒192名のアンケート調査を行い、これらを踏まえて代議員全員によるワークショップを開催して、「地区のまちづくり未来計画」を策定
- ②防犯活動に通学路の防犯灯整備を追加
- ③交通設備改善に狭隘な通学路にグリーンベルトの設置を追加
- ④環境整備(町内清掃時に)汚れたカーブミラー等の清掃点検作業を追加

今後の展望

将来に向けて

この活動をSDGs(継続可能な開発計画)としていくために

- ① 笠岡市では小中一貫教育化が計画されていますが、これが実施されても地区の将来を担う子供達の安全安心な成長を図っていくためにも、見守り活動や防犯パトロールは継続して実施していくことが必要であると考えています
- ② 中学生のアンケート意見にありました防犯灯や防犯カメラの整備のうち防犯カメラについてはコストパフォーマンス他の関連で思うように進んでいませんが、知恵を出して他の設備改善と併せて進めていきたいと考えています。
- ③ いずれも活動を継続発展させるために、組織とこれに相応しいリーダー若干名の育成が肝要と思っています

☆課題をどのように解決…？

防犯灯の設置については、笠岡市の補助金制度が活用できるものの各地区町内会の金銭負担が生じるため、担当するまち協代議員は粘り強く説得を繰り返す必要があること

地域の児童・生徒等の見守り、交通・防犯活動（交通・防犯部会）



【子ども110番見直し設置】



【通学路へ横断歩道の新設】



【通学路へ落石防止柵設置】



【通学路へ減速表示設置】



【防犯パトロール】



【通学路へグリーンベルトの柵設置】



【下校時の児童見守り活動中】



【通学路の老朽カーブミラー取替】

地区の環境に関する事業の推進(環境部会)



◆だれがどのように…？

平成23年度、防災・減災活動を中心にスタートさせた「金浦まち協活動」に地区住民のアンケート調査に基づいて、27年度から新たに「交通・防犯部会」と「環境部会」を加えて活動の充実化を図った

空家調査実施には大字地区の
現地情報が不可欠
また広範囲になるため一人ではとても出来ない
地区の組織力が調査実施のポイントになります

きっかけ

- ①地区に空家が多くなってきた
空家も危険空家と住める空家がある
- ②地区にゴミが散乱している
場所がある
金浦地区内で地区別に清掃活動
をしている地域がある反面で出来
ていない箇所も散見

(H25住民アンケート調査)

STEP1

- ①空家調査実施
空家データをExcelとデジカメで
まとめる
地区の行政協力委員・民生委員
・自治会メンバー等と協力依頼
- ②ポイ捨て防止看板設置
ゴミ散乱場所

※看板は笠岡市環境課より調達
看板は「金浦まちづくり」のロゴ入り

STEP2

- ①空家調査データを笠岡市都市計画課・
定住促進センターに提出

危険空家→都市計画課
住める空家→定住促進センター
- ②ポイ捨て防止看板は随時設置

※看板は笠岡市環境課より4枚～5枚まとめて調達

STEP3

- ①空家調査データ
危険空家→都市計画課→まち協
住める空家→定住促進課→まち協
- 市役所より
提出データに状況を記入して
まち協環境部会で説明会実施

今後の展望

将来に向けて

この活動をSDGs(継続可能な開発計画)としていくために

- ① スムーズな調査活動をするためには
ITCの整備は不可欠です
- ② 地区、まち協、行政の
風通しの良いコミュニケーションが
ポイントになると思います
- ③ 活動を継続発展させるために、各組織供
人材育成・研修と行政の
バックアップが重要と思います



☆課題をどのように解決…？

調査実施、まとめに一部の人の
負担が大きくなります
↓
可能な限り業務分担

各地区の清掃作業及び啓蒙看板類の設置 (環境部会)



【地区ごとの清掃作業 海岸清掃・生江浜 用水路清掃・金浦鉄南 公道清掃・相生、古比須他】



【ゴミポイ捨て防止啓蒙看板他】



御存じですか！

『ふれあいほのぼの相談』とは



毎週木曜日の午前10時から15時の間、笠岡市内16地区の民生委員が交代で無料相談を行っています。これが「ふれあいほのぼの相談」で場所は、老人福祉センターにあります。

秘密は守られますので、日常生活のなかで何でも結構ですお困りのことがありましたら一人で抱え込まずにご相談ください。

また、ソーシャルワーカーなど社会福祉事務所職員による相談も受け付けています。こちらは毎週土・日を除き午前8時30分から17時15分までとなっています。



金浦地区通学路5か所に

笠岡ダイハツ販売(株)からの寄贈により

LED等の防犯灯が設置されました

住民の減少に伴って地区の商店が次々と閉店する影響等により、金浦中学校生徒から「通学路が暗く、部活等で帰宅が遅くなった場合に怖い」などの意見が出ていました。

この度、笠岡ダイハツ販売(株)代表取締役 八杉耕太郎氏のご厚意により金浦地区内の通

学路5か所に防犯灯が設置されました。お礼方々紹介をさせていただきました。

【設置された箇所】

- JR山陽線竜宮荘付近の市道
- 旧山陽新聞販売店付近の市道
- 旧今井サイクル店付近の県道
- 旧藤本酒店付近の県道
- 井笠カンパニー金浦ロバス停付近(灯具)



編集後記

新型コロナウイルス第5派における新規感染者も減少する兆しが見えてきましたが、感染症に係る医学者の皆さんが第6派の発生を予測されています。新しく発足した岸田内閣も希望する国民に対して3回目のワクチン接種を決定したとマスコミを通じて報道されています。新規感染者数が減少しているとはいえ、まだまだ予断を許せる状況では無いと思われまます。地区の皆様、お互いにコロナに感染しないように改めて3密を心がけると共にマスクの着用、うがい手洗いの励行、手・指先の消毒に努めましょう。